

こども園評価の報告書（認定こども園青葉保育園）

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項 ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等	・朝礼、職員会、園内研修の場を通して、「限りなく伸びていく可能性を秘めた子どもたちが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を養う」という基本理念を基に、全職員、教育目標・保育方針を確認し、子どもたちが生活や遊びや保育活動の中で自ら考え、積極的な意思表示や意欲的に他者と関わられるようになるための保育について、学びを深めた。 ・食育活動、わらべ歌遊び、英会話、体操教室の他、ハサミなどの道具を使った製作活動、教材を使った線のワークから文字の練習、就学に向けて椅子に座って机で行う活動時間の拡大など、計画に基づいて取り組んでいる。 ・保育に関する研究については、キャリアアップ研修受講後の専門リーダーが中心になり、幼児教育、乳児保育、障害児保育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策、子育て支援の各分野に関する情報収集、実践、考察をして、園内研修でアウトプットする形で保育実践に関する研究に取り組んでいる。
健康支援	・オンラインシステム「コドモン」を活用し、登園前までの自宅での様子（食事、睡眠、健康状態等）保護者に入力してもらうことで、園児一人一人の健康状態を家庭との日常連携のもと把握できた。また、職員間で園児一人一人の健康状態、家庭からの園児の情報を共通理解するよう努めた。 ・「保健年間計画」に基づき、園医による総合的な健康診断、歯科検診などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と看護師が連携を図り、健康管理を行った。 ・保護者には、園児と家族を含めた健康観察をお願いし、感染症の感染拡大防止に努めた。 ・保護者とのコミュニケーションを図り、家庭状況や健康状態の把握を連携しながら行えるよう努めた。
安全管理	・保健衛生・安全対策リーダーが中心になり、ヒヤリハット報告事例の分析、対策を検討し、資料作成、職員会での説明、対策方法の周知、統一を図り、重大事故防止に努めた。 ・駐車場での登園・降園時の送迎での車両事故を防ぐため、交通安全週間の時期やヒヤリハット報告等のタイミングでオンラインシステム「コドモン」を活用し、保護者へ安全運転を呼びかけた。 ・毎月の安全点検では火災（水消火器を使った消火訓練を含む）地震 洪水・不審者の侵入などを想定して訓練を行った。その都度担当者を中心に課題や改善点を出し合った。 ・園内の安全点検や修繕、避難訓練、アレルギー対応等を全職員で点検やマニュアル確認を定期的に行っている。 ・施設の安全点検は毎月1回複数の職員で行い、修繕及び改善につなげた。 ・自然災害では想定外のことも起こりうるので、水害も含めた災害時対応マニュアルの再確認や職員への周知徹底をした。
食育の推進	・食育の専門リーダー職員が中心となり、子どもたちの意見を取り入れ、計画を立てて活動に取り組んだ。野菜を栽培し、調理して食す経験として、年長、年中児で畑で人参とじゃがいもを栽培し、人参ケーキや豚汁作りをした。事前学習として、栄養士と食育リーダーが絵や道具を使って、調理工程についての説明を行った。1、2、3歳児はプランターでナス、ピーマン、サラダレタス、ラディッシュ、栽培し、野菜の成長過程を観察し、ピーマンでスタンプ作ったり、収穫した野菜を給食のサラダにして食した。とれたての旬の野菜の香りやおいしさを味わえたことや自分たちが育てたということで、子どもたちが野菜に興味を持ったり、嫌いだった野菜も少し食べてみようという挑戦したりして、食べられる食材が増えた子どもも複数みられ、活動の成果が感じられた。

関係者評価の取り組み	・相談苦情の第3者委員会の報告会では、「保護者の要望や相談や苦情に対して、真摯に向き合い、改善するためのマニュアルを作成して、対応を改善し、統一するなど誠実に対応している。現在の対応を継続して、誠意をもって、こどもや保護者に向き合っていくように。」という助言をいただいた。
子育て支援 ・入所している 子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等	・町より委託を受け、子育て支援センター「ひまわり館」を併設しており、地域で子育てをする保護者の相談窓口となり、また、保護者間の交流の場としても活用されている。 ・入所している子どもの保護者とは、オンラインシステム「コドモン」を使い、日々の連絡のやり取りや登・降園時に子どものことを伝え合い信頼関係を築き、子育てに悩みや不安がある時は適宜、面談を持ち、話を聞くようにした。 ・園児、保護者、それぞれ個々の状況を的確に把握することに努め、必要に応じて福祉課保健師や訪問発達支援の作業療法士の先生や療育施設などの専門機関と連携し情報提供したり、子育ての不安や悩みに ついて共に考えたりするようにした。 ・子育て家庭の支援では、里帰り出産で帰郷される保護者のニーズから出産時にきょうだいを一時預かり支援を行った。
教育・保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現	・教育・保育内容に関しては、日々の保育に加えて、訪問発達支援の作業療法士の先生による指導を通して、保育教諭と子どもの価値観や感じ方には違いがあり、職員が自分の価値観を当たり前として捉えず、柔軟な発想をもって違う意見を言える場があり、違いを認め合える集団を作っていくことの重要性を学んだ。 ・養護・健康に関しては、感染予防に関する知識を子どもたちと共に学び、手洗いや消毒に努め、感染予防についての意識を高めることが出来た。 感染予防対策についての園内研修や発熱、体調不良時の対応のフローチャートを作成し、健康観察、維持管理に努めた。 ・保健だよりを発行し、保護者へ家庭でも活用できる感染症に関する情報提供を行った。 ・人間関係に関しては、園児が保育教諭との信頼関係の中で、安心して園生活を送り、遊びを通して友だちとの関係を深め、人とつながり生きる力の基礎を培うことが出来るような教育保育を目指してきた。
特別支援教育	・保護者との連携を密にし、また、訪問発達支援の作業療法士の先生による発達相談を通して、保護者の困り感や願いや思いを十分受け止めた上で 子どもを中心に据えて、支援を進めていくようにした。 ・「個別の支援計画」については、保護者の思いを大切にすることを基本に作成した。また、保護者との信頼関係を築いていくために、情報の共有を大切にすること口頭、個人連絡帳での伝え合いに努めた。
職員の資質の向上	・乳児保育、幼児教育、障害児保育、保護者支援、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策などのキャリアアップ研修を受けた各分野のリーダー、マネージャーを中心に、各分野ごとの情報収集、実践、考察、アウトプットのための園内研修を計画、実施した。 ・園内での子どもの姿を話し合う中でクラスの課題を明確にし、子どもの理解を深めると共に、活動内容や職員の関わり方等を考えていった。 ・外部講師を呼び、「不適切保育防止」、「食を楽しむための食育、食事介助」などのテーマで研修を行った。 ・職員に受けたい研修等の希望を募り、オンライン研修等を活用して、保育の質の向上や、業務負担の軽減、業務改善につながるよう努めた。

幼保小中の連携	・ 小学校教諭が保育園にて、年中、年長児を中心に保育参観をし、就学前の子どもの特性についての情報交換を行う。就学後、保育教諭が小学校にて授業参観後、情報交換を行う、就学前の個人票を元に情報交換を行うなどの連絡会を中心に、池之原小学校教諭、町の社会教育課、療育施設、訪問療育の先生と連携し、就学前、就学後の情報交換、連絡を行っている。 訪問療育の先生や特別支援学級の担任や放課後等デイサービスの管理者や療育施設の心理師と保護者とともに、進学準備や特別支援学級についての学習会を行い、保護者のアンケートでも「勉強になった」との感想が聞かれた。
・ 保護者支援・保護者の自己決定の尊重・接遇	・ 保育園入り口に相談窓口のポスターを掲示し、電話やコドモンでの連絡や対面での相談など保護者が気軽に相談できる体制と雰囲気を作れるように取り組んでいる。 相談を受けた際は、保護者の思いや困り感をまず優先して傾聴し、保育園での様子や専門機関からの助言などの情報提供をし、選択や意思決定が必要な場合は、保護者が十分検討し、決定できるまで待つという支援を行った。

以上のとおり報告します。

令和7年4月1日

認定こども園青葉保育園

園長 中村博樹